

もくじ Contents

3 特集
知れば、救える命がある。
救命講習会

6 市政だより
●市職員給与・定員管理などの状況
●下水道使用料改正のお知らせ
●津山市総合斎場施設使用料の改正
ほか

12 ふおとほつとるぼ
●第62回津山市成人を祝う会
ほか

14 みんなのページ・ちゃい
●お・た・よ・り
●つやまっ子に贈る100冊の本
●きらめく津山人
●イラスト・絵手紙
●広報クイズ
ほか

17 としょかん

18 こどもひろば
●日本舞踊津山こども教室
●じどうかん

19 けんこう・そうだん

20 けいじばん

26 くらし

28 Albumあの頃の津山

明治維新の後、箕作秋坪は政府からの出仕の求めを断り、一度は全ての公職から身を引きます。しかし、その後も再三の要請があり、明治8年（1875）、官立の東京師範学校の摂理（校長）に就任したのでした。

明治政府にとって大きな課題の一つが、教育制度の整備でした。明治5年（1872）8月には学制が公布され、小学・中学・大学という学校制度が定められますが、その実施に伴い、近代的な教育手法に対応した教員の養成が急務となりました。そこで、小学校の教員を養成する学校として同年5月に設立されたのが東京師範学校でした。

在職中の最も大きな業績は、秋坪自身の建議によって、明治8年8月に中学校の教員を養成するための中学師範学科を創設したことです。学制では中学校の教員は大学で免状を得た人が就くと定められていましたが、この時まだ学制に基づいた大学がありませんでした。そこで、この学科を設置することを考えたのです。中学師範学科は、後に独立して高等師範学校となり、東京教育大学を経て、現在は筑波大学となっています。

秋坪は明治11年（1878）に摂理を辞任し、翌12年（1879）には国立科学博物館の前身である教育博物館の館長に就任します。明治18年（1885）からは図書館長も兼任しますが、翌年、願い出て辞任し、その年の12月3日に、腸チフスのため62歳でその

筆漫覧博学洋
～秋坪の晩年～



▲箕作秋坪肖像画 川村清雄画
(津山洋学資料館所蔵)

生涯を閉じました。

秋坪と親交の深かった教育者・中村正直なかむらただしが書いた秋坪の墓誌には、その人柄について「慎み深く、言動は疎かおろそでなく、虚飾を退け、浪費を戒めた」と刻まれています。津山藩主の松平齊民なりたみ（確堂かくどう）もそうした秋坪の人柄を信頼し「言葉と行動が違わないのは、ただ秋坪だけである」といつも周囲の人に語っていたといえます。

急激に世の中が変化した幕末から明治にかけて、時代の大きなうねりの中で自らの役目を果たした秋坪の功績は、日本の近代化の礎となったのです。